



木曾シュミットアトラス編集委員会編

KISO シュミットアトラス

1994年3月31日発行

丸善 13,390円 B4版 160ページ

解説書

お薦め度
☆☆☆☆

理科年表読本として出版されているユニークなシリーズの中に異彩を放つ一冊がこのほど丸善から出版された。『KISO シュミットアトラス』と題されたこの本は版型B4の大冊でしかも大部分が写真図版であり、この図版だけでも十分見ごたえのある内容を備えている。本書の前書きと昨年11月に長野県で開かれた木曾観測所開設20周年記念シンポジウムの集録に記されたこの本の製作動機と経過を見ると、この企てに関わった人々の熱意と努力が並々ならぬものであることが伝わってくる。このような見て楽しめる本物の天体写真集の出版は、専門的な研究機関からの社会への還元として時宜にかなった歓迎すべき企画であり敬意を表したい。

本書の目標はシュミット望遠鏡の広視野を生かして色々な天体の写真を撮影し、適切な解説と共に一般天文教育用に提供することにある。そのため、特製のカラーフィルムを用いて数多くの写真が撮影された。本書の前半にはカラー写真が原板そのままの大ききで美しく印刷されており、この部分が実に圧巻である。このような大ききフィルムに天体写真を撮影できる大型カメラは国内では木曾のシュミット望遠鏡以外には考えられない。しかも、心憎いことにそれぞれの写真に天体座標（赤緯、赤経）の目盛りが入れてあり、天球上の天体の大ききを知るためには実に行き届いた配慮がなされている。これまで天体写真集は数多く出版されてきたが、原板の大ききそのままでも座標の目盛りが入ったものはおそらくこれが初めてと思われる、この点が本書の最大の特徴であろう。本の後半にはシュミット望遠鏡で撮影された数多くの乾板の中からえり抜かれた写真（モノ

クロ）が掲げられている。どの写真もモノクロ独特の迫力があり、この部分は木曾シュミットの20年間の蓄積を見事に示している。

このようにどの図版を見ても楽しめるのであるが、本書の特徴はそれだけではない。本の中ほどには、シュミット望遠鏡で繰り広げられてきた天文学および天体観測と画像処理の技法について手際よくまとめられた本文がある。図がたくさん用いられていて大変理解しやすい。内容的にも宇宙論から太陽系まで取り上げられており、これだけの内容を盛り込んだ授業を大学で行おうとしたら、1年ではとても無理ではないかと思われる。

図版を見ながら気がついたのだが、写真が原板の大ききそのものなので比較的小さい天体は注意して見ないとすぐには目に入って来ない場合がある。そこで、銀行の景品にもらった倍率2倍の天眼鏡を使ってみると、あまり目立たなかった天体がくっきり見えて全然迫力が違う。あまり高倍率だと印刷の網目が目立つので、2ないし3倍が適当なようである。本書をより楽しみたい人には数百円の天眼鏡を使ってみることをおすすめする。また、出版社には、再版するときには天眼鏡を付録に付けたらどうかと提案したい。

ともあれ、本書は天文学を愛好する一般読者のもとより、天文学を学ぶ大学生にも是非勧めたい一冊である。また、学校や公共の図書館には是非備えて欲しい。しかし、値段からいって、中学生や高校生がお小遣いで買うのはちょっと無理かなと思われるのは少し残念である。

定金 晃三（大阪教育大学）